

## 開 議

○町田義昭議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

○町田義昭議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、上着の着脱はご自由に願います。それでは、順次ご指名いたします。

### 蒲生光男議員の質問

○町田義昭議長 順位1番、議席番号6番、蒲生光男議員。

(6番蒲生光男議員登壇)

○6番 蒲生光男議員 おはようございます。

私の質問事項は3点でございます。市長以下、当局の皆様方には明瞭的確なご答弁をお願い申し上げます。

最初の質問は、長井市財政の見通しであります。

6月定例議会に繰越明許費として約5億8,000万円が計上されておりますが、繰越明許費、つまり債務負担行為が最初から複数年度にわたるものであるのに対し、経費の性質や予算成立後の何らかの理由でその年度内に支出が終わらない見込みがあるものについて、議会の議決を得て翌年度に繰り越して使用できるようにする予算をいいます。通常は、補正予算の形で議会に提案されております。

一昨年秋のリーマンショック以来、長井市にとって相次ぐ交付金が来たことにより、今までなかなかできなかった学校の耐震化などの事業ができるようになり、長井小学校第3校舎の耐震化工事、総額3億7,809万1,000円が報告第2号として上程されております。国、県から1億8,867万5,000円が交付されるもので、長井市単独ではなかなかできない小学校の耐震化、今後の各学校の耐震化が進むことは、校舎という公的な施設の改修が進むことは大変すばらしいし、ありがたいことだと思っております。

今後の耐震化計画を見ますと、長井小学校第3校舎は22年工事が実施されますが、長井小学校体育館、致芳小学校の校舎及び体育館が22年実施設計し、23年工事予定、西根小体育館は今年実施設計で24年工事の計画という内容でございます。いずれも建築年からいうと、古くは昭和45年、新しくても54年の建設のもので、子供たちが安心して学べる場所、いざというときの地区民の避難場所の性格を考えますと、急がなければならないと私は思います。

ことは、そういうことで財政的なゆとりもあるようですが、次年度以降について財政課の財政の中期展望でいうと、必ずしも楽観できない数字が並んでおります。この中期展望について財政課長から、どのような根拠があってこの計画になったのか、また長井市の財政の全国的なレベルとして財政指標でいえばどの位置にあるのかについてご説明をお願いいたします。

学校給食共同調理場についても大規模な改修が行われます。総額7,008万5,000円で、7月1日より8月31日までの間に工事を完了する計画であり、この間の弁当持参日数は26日間と聞いております。この学校給食共同調理場の、いわゆる延命工事によってどれくらい延びることになるのか。そのほかの長井市の各施設、市内各小学校のトイレ改修、スクールバス車庫建設、生涯学習プラザのダクトさびつき工事、市民文化会館の揚水ポンプほかの工事で270万7,000円、宮プールの撤去などで1,380万8,000円など、多岐にわたる工事がメジロ押しでございます。

この繰越明許費約5億8,000万円のうち、国、県支出金として3億7,753万9,000円、地方債が1億6,810万円、一般財源はわずか3,270万8,000円ということであります。こんなうまい話がこの先にもあるのか、その見通しはどうかについても財政課長から答弁をお願いいたします。

市長には、長井市財政についてどのようなご認識をお持ちか、歳入歳出についての市長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

今年度、経常収支比率は91.5%、しかし、23年度99.4%と悪化するという報告内容であります。子ども手当の関係で扶助費が伸びていますが、各種財政指標の推移、基金残高や地方債現在高などを見ると、長井市の財政は基金もないが借金も少ないというのが私の感想でございます。市長はどのように見ておられるのか、お伺いをいたします。

ちなみに普通会計ベースで近隣市町の地方債現在高を市民・町民1人当たりにすると、どのようになっているか、財政課長から答弁をお願いいたします。

最近の天候不順は、最近は天候いいようですが、農作物に少なからず影響するのではないかと私は思っております。寒暖の差がこれほど激しいのは過去に遭遇したことがございませんの

で、この影響が市税収入とかいろいろな面に影響するのではないかと思われますが、長井市の財政運営が誤りのない方向に進むことを期待申し上げます。次の質問に入ります。

黒獅子まつりは、絶好の天候にも恵まれ、過去最大の人出になったのではないかと思います。第21回を数えることしの黒獅子まつりについて、課題や今後の取り組みなどについて、市長、商工観光課長から答弁をお願いいたします。

長井の里は、「水と緑と花のながい」に加えて「黒獅子の里」としてすっかり定着しました。第21回を数える黒獅子まつりには、ことしも市内の神社11社が参加し、勇壮な獅子舞を展開し、見る人の心をとりこにしたのではないかと思います。JANでは、黒獅子のライブ中継が行われました。聞くところによりますと、「50年ぶりで黒獅子のライブ中継を見て感動した」との書き込みも寄せられたとのこと、故郷を離れ、都会で生活している多くの人たちから見れば、小さいころ両親に連れられてお祭りを見に行っただころの幼い記憶がよみがえってくるのではないのでしょうか。懐かしさ、この季節であれば、遠い山々の緑に映える姿や田植えが終わってカエルの鳴き声、万物がすべてよみがえる1年で最も過ごしやすい季節、昔の田舎暮らしのことが脳裏に浮かぶことでしょう。

こういう形で長井の情報を四季折々に発信をしていけば、ふるさと納税にもつながるのかもしれないかもしれません。ふるさと回帰の手段として、また、長井市の活性化策の一助としても、あるいは伝統芸能の継承という一面からも黒獅子まつりを開催する意義は極めて大きいと私は感じておりますが、いかがでしょうか。

午後の黒獅子まつりの最初に子供たちの獅子踊りなども披露されました。地域の伝統芸能を継承する子供たちと父兄が一体になった姿はとても好感の持てるものであり、ぜひこの輪をもっと広げていきたいものだと思ったところであ

ります。

大変すばらしいお祭りではありましたが、課題もあるのではないのでしょうか。祭りの今後への展開、取り組みとして考えられる事柄もあるかと思います。まず、交通弱者や身体的に不自由な方、施設で暮らしているお年寄りにも見せたいと思うのは当たり前であります。午後の庭獅子の時間帯に施設のグループホームで見に行きたいということでしたが、マイクロバスあるいはワゴン車をとめる駐車スペースの確保が難しいという話を聞きました。福祉車両の駐車スペースがあらかじめ施設の意向を聞いて確保するなどできないか、また、獅子舞を見られる場所を体の不自由な方々に対して一定程度確保することなど、配慮も必要ではないかと思ったところであります。

また、獅子舞にはご神酒とご信心はつきものでありますが、「一升瓶をあけるようなやり方はどうか。いかにイベントといえど、神の化身としての獅子の威厳が保てないのではないか」と言う市民の方もおりました。祭りの終盤、救急車で獅子連の人が運ばれたとのことも聞きましたが、祭りには酒はつきものとしても、羽目を外し過ぎるとイベントの開催を危うくしかねないと思いますが、こういうことに対し、黒獅子まつり実行委員会でのどのように取り組まれていくのか、お聞かせをいただきたいと思います。

過去に、「獅子などを展示する黒獅子会館があったらいいな」という提唱もございましたが、祭り期間だけでなく、できれば常設の展示場が欲しいと私は思っております。黒獅子にまつわる歴史、獅子舞の道具などを陳列し、市外、県外などの人へのもてなしの一環として検討してみてもどうかと思いますが、市長はどのように思いますか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

黒獅子といえば、長井市、飯豊町、川西町で主に行われておりますが、昨年、飯豊町の小白

川神社の獅子舞が参加されました。たまに市外の獅子舞を見物できることは貴重な機会と言うべきであります。私は、1市2町の連携をとりながら長井市からさらに広域の黒獅子まつりができないかなどと思っておりますが、このような考えに対してどうでしょうか。

商工観光課長からは、ことしの黒獅子まつりの反省や課題、獅子舞を行っている長井、飯豊、川西の神社数、参加した神社への謝礼金の額、神社の今回の獅子舞の実際の経費などについてお答えをいただきたいと思っております。

市長からは、総合的なことのほかに質問の(2)、(3)についてお答えをお願いしたいと思います。

次に、スポーツを日常的に取り入れて健康先取りのまちづくりについてお伺いをいたします。生涯スポーツ課を設置されましたが、そのねらいと役割、マラソン大会を積極的に開催する自治体が多くなっていますが、その背景、理由、スポーツ都市「ながい」をより目指したまちづくりについて、それぞれお伺いいたします。

今月6日、東根市でさくらんぼマラソン大会が開催されました。参加人数1万人を超える東北最大のマラソン大会に成長しておりました。ゲストランナーに瀬古利彦選手、千葉真子選手、中山竹通選手を招き、絶好のマラソン日和の中の開催でした。ご存じ東京マラソン大会は石原都知事肝いりで始まった日本で最大のマラソン大会であります。私も毎年参加している青梅マラソン大会は2万人の大会でございます。そのほか、日本には河口湖マラソン大会、つくばマラソン大会など、参加者1万人から2万人を超える大きい大会が数多くございます。

それらビッグイベントとすぐ比較はできませんが、5月9日に飯豊町の白川ダム湖畔マラソン大会が開催され、私も参加してまいりました。飯豊町の後藤町長も副町長も5キロを走破されました。町長は昨年、「1,500人規模の大会に

+

したい」と言うておりましたが、参加人数をふやすのには、まずみずからが走らねばという思いになったのだと思います。飯豊町の小・中・高の生徒は参加費無料になっていたと思いますが、みんなで参加するという気持ちは大事だと思います。ことしの大会には、プログラム掲載時点で1,200名の選手のエントリーでした。当日参加もできますので、当日参加も結構な人数になっていたと思いますので、私は1,300人は超えたのではないかと考えております。

近年のマラソブームで参加申し込みの出足が早くなっております。スポーツの持つ意義、政治も経済も混沌とした時代に自然回帰の思想が次第に芽生えてきたのではないかと私は思っております。ゆっくりとゆったりと自分のペースで走る、走るのがつらいときは立ちどまって歩く、それでもいいのであります。ゆっくりと長い時間運動をすれば、有酸素の運動効果があります。走り出して一番つらいときを過ぎると、「ランニングハイ」という現象になります。ゆっくり運動をする意味について、ランニングを始めて、どうしてもハアハア、ゼイゼイと呼吸が苦しくなるまで追い込むイメージがあります。これは全く間違いです。ゆっくりと気持ちのよい汗を流すことが目的であります。15分から30分ぐらいゆっくりとランニングをしますと、身体も温かくなり、脂肪が燃え出し、額にもしっとり汗ばむ状況ができます。しかし、気持ちがよく、このままランニングを続けたいという気持ちに自然になるのが、ランニングハイという現象であります。多くのランニングファン並びに愛好家は、このランニングハイを継続してランニングを長く楽しみながら走っております。結果として内臓脂肪の減少により、生活習慣病が克服されるようになるのであります。

開催目的に、地域活性化とか交流人口増大策とかありますが、私は健康づくりとして、ゆっくりゆったり汗を流すマラソン大会を開催する、

健康を先取りするという目的に置きかえて、もっと力を入れるべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。また、例として白川ダム湖畔マラソン大会のことを触れましたが、各地で開催されている大会を私はもっと学ぶべきだと思っております。

私は、年1回の大会開催ではなく、春夏秋冬に1回ずつマラソン、ジョギング、ウォーキングの大会を組み合わせ開催したらどうかと思っております。そして、日常生活の中に運動を定着させていくべきではないかと思っております。

健康のまちづくり、市民1スポーツを積極的に推進するスポーツ都市市長を目指して、健康先取りの観点からスポーツ大会への予算を積極的に措置し、推進していくことを提唱し、質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

蒲生光男議員のご質問にお答えいたします。議員からは3点いただきました。

まず、最初の長井市の財政見直しについてということで、私からは歳入歳出に対する市長の基本的な考え方はということでございますので、この件についてご答弁申し上げます。

長井市の財政状況につきましては、財政調整基金の積み立てや繰上償還によります起債残高の減少などで、以前に比べたら明らかに改善傾向にあるというふうに言えると思います。財政調整基金につきましては、21年度決算剰余金の状況にもよりますが、今年度もさらに1億円を計上し、22年度中に3億5,000万円にしていきたいというふうに考えております。今まで過去20年、30年を見てもみると、しっかりと目標を定めて継続して積み立ててきたということは余りなかったのかなというふうに思っておりますので、そういった反省を踏まえながら、しっか

りと基金の積み立ても行っていくという考え方でございます。

また、歳入歳出とのことですが、歳入につきましては、社会情勢をかんがみて市税収入を手がたく見込んでおります。また、国、県の動向から地方交付税や補助金等の依存財源も過大な見込みにならないように内々で算出し、計上しております。歳出につきましては、中期展望に織り込んだ事業を基本として、見込まれる歳入の範囲内で歳出を組むことが肝要と思います。これは財政課長の方で後で詳しく答弁いたさせますが、議員の方からご指摘のあった財政の中期展望でございますが、3月定例会でもお話いたしましたように平成18年から平成22年までの過去5カ年間、ことしも含めてでございますが、4年間の中期展望では23億3,700万円の財源不足が見込まれておりました。それが今回、平成22年から26年までの5年間の計画では2億9,700万円、約3億円ということでございまして、この過去4年間の23億3,700万円を何とか乗り越えることができた、これは市民の皆様あるいは議会の皆様のご協力によるものでございますが、そういったことを勘案しますと、決して厳しい数値ではないというふうに思っておるところでございます。

特に歳出についてでございますが、過去、私が就任して4年目でございますが、平成18年から今年度の4月1日の段階で退職された職員が74名、採用した職員が29名ですから、差し引き45名職員の削減を行っております。また、過去11年間で見ますと、403名から現在293名でございますので、110名、約30%の職員を削減してきたと、これが一番大きいのだろうというふうに思っておりますし、ほかにさまざまな団体の補助金あるいは助成金、そういったところをご協力いただき、一部、昨年までは市民サービスの低下もお願いして、地区長手当あるいは隣組長手当、また敬老会事業の中止、市報の発行の

減少など、そういったところでまずご協力をいただいて何とかやってきたということから考えますと、今後5年間はきちんと計画を立てて行えば、何とか乗り越えられるというふうに思っておるところでございます。

次に、2点目の盛況だった黒獅子まつりについてでございます。私の方からは総体的にお話しさせていただきまして、特に、(2)獅子頭など一堂に展示できる場所の確保など今後の取り組み、また、長井市を中心として飯豊、川西と黒獅子の連携した一大イベントにできないかという点でございますが、ことしの黒獅子まつりは恐らく今までにないぐらいのすばらしい天候に恵まれたこともございまして、最高の人出であったというふうに思っています。また、テレビスポットなど、今までにはできなかった事前の広報活動も功を奏したのかもしれないというふうに考えております。総体として大盛況でありまして、観光協会役員を中心とした実行委員会の皆様に感謝申し上げたいと思ひますし、ご多忙の中をご出演いただきました各神社の氏子、若連中の皆さんに心より感謝申し上げたいというふうに思っております。なお、これからも改善を積み重ねてよりよいものにしていただきたいというふうに考えております。

ただ、やはり黒獅子の魅力は何かといいますと、観光化されたっていいですか、そういったものではなくて、やはり年に1回行っている各神社の神事を再現いただいているという迫力によるものが大きいんじゃないかと私は思っておりますし、議員からもご指摘ありました酒を、一升瓶を振り回すということも、これは演出ではなくて実際、各神社で行っているお祭りもそのように行ってますんで、そういった意味ではやっぱり迫力があるなというふうに思います。ただ、子供たちも大勢いるお祭りですので、その辺のところは実行委員会の中で氏子の皆様とご相談いただきながら、来年度以降、検討してい

+

ただきたいというふうに思っています。なお、救急車の事故がございましたが、あれはたまたま警護の方の棒が獅子に入っていた若連中の頭にぶつかったということで、ちょっと打撲程度で済んだということですが、そういった事故も気をつけなきゃいけないというふうに思ってます。

質問の(2)の獅子頭など一堂に展示できる場所の確保、今後の取り組みについてでございますが、市内の旅館などでは独自に獅子頭の展示を行っているところもございますし、ことしは、あら町商店街で昨年まで行っておりました「あら町レトロ」にかわる「蔵と庭のまち あら町の黒獅子巡り」をことし実施いただいております。ちょっとPR不足ではございましたけれども、結構反響がございまして、喜んで見られた方も多いうふうに聞いておりますが、各商店に獅子頭を展示し、その思い出などを掲示するものでございまして、地元商店街の発想によって実施されたものであり、ことしは準備がおくれ、PRが行き届かない状況もございましたが、白つつじまつり、黒獅子まつりと連動し、一定期間実施できる可能性を持ったものとして来年度以降、大いに期待したいというふうに思いますし、行政側としても必要とあれば、お手伝いをしなきゃいけないというふうに思ってます。

議員からございました常設記念館を単独で設置するという事は、諸般の事情から見て今の状況ではすぐにといったことは難しいというふうに思っております。当面はこうした動きを支援していきたいと思っておりますし、長井市としてはまちなか観光を、まちなかめぐりをメインとしておりますので、点というよりは商店街あるいは中心市街地で何か所も黒獅子を見る場所、展示してる場所があるというのも一つの魅力ではないのかなと思っております。

次に、長井市、飯豊町、川西町と黒獅子の連

携した一大イベントにできないかという点でございますが、昨年の20周年の記念に小白川の獅子が好評であったことは聞いておりますし、私も拝見してやはり見事だなというふうに思ったところでございます。黒獅子をテーマとして1市2町の事業を考えていくことは、今後の方向性として特に広域観光といった意味からも検討に値するというふうに考えているところでございます。

最後の質問でございます。スポーツを日常的に取り入れて健康先取りのまちづくりということでございますが、スポーツ都市「ながい」を目指してということについては、私も議員と全く同感でございまして、いろいろご批判もございましたが、私は、ことし生涯スポーツ課を新設したことは、これは必要不可欠なことだなど、こういったスポーツ都市市長井あるいは市民の皆様様の市民1スポーツ、子供からお年寄りまでスポーツを楽しんでいただくということと、健康の維持増進を図るという意味では必要だったことというふうに思っております。やはり今まで文化生涯学習課の中にスポーツ主幹という管理職を置いて、そして学習プラザの館長という立場で学習プラザの方に出先を置いてスポーツの振興を図っていたというスタイルは、市民にとってもわかりにくいですし、また、組織立った活動がしにくいというふうに私は感じておりました。そういった意味では市民の皆さんが健康で豊かに生き生きと生活できる、活力あるまちづくりを実現するためにはスポーツ活動は欠かせないものであり、このたび生涯スポーツ課を設けて健康の保持、増進、体力づくりに目を向けたときにスポーツの振興は大きな役割を果たすというふうに考えております。

議員からもありましたようにスポーツは体を動かす喜び、競い合いのおもしろさ、爽快感などを与えてくれるとともにストレス解消にもなりますし、健康な心と体の発達を促し、人との

つながりをはぐくみ、未来を担う青少年の健全育成にも大きな効果があると考えます。このことから先ほど言いましたように生涯スポーツ課を新設したわけですが、今後は市民スポーツ教室や各種スポーツ大会の充実を図りながら市民一人1スポーツの実践をより確実に推進するとともに競技スポーツの振興と競技力の向上を図ることにより、市全体の活性化につながるというふうに確信しているところでございます。

ことし4月末に開催されました県縦断駅伝競走大会、長井・西置賜チームが総合7位の成績をおさめました。きょうの山形新聞の地方版の方にも紹介されておりましたが、これは長井市の陸上あるいはマラソン、駅伝に大変明るい夢を与えてくれる大きな実績だなというふうに思っておりますが、市民の皆さんは選手の力走に大きな声援を送りまして、大きな感動を得たと思います。例年になく町全体が盛り上がったのではないかと考えております。

今、市民の皆さんはスポーツに大きな関心をお持ちです。市内全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの創設により、市民が主体的に活動し、だれもがスポーツを楽しみ、スポーツを生きがいの一つとして実感できるように関係団体等の皆さんと連携し、スポーツの振興に取り組んでいくことでスポーツ都市ながいが見えてくるというふうに思いますので、蒲生議員からもより一層のご指導、ご鞭撻を賜りたいと思います。以上でございます。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 おはようございます。

蒲生光男議員の生涯スポーツ課の取り組みについて、私の方からお答えをします。

昨年度までも文化生涯学習課の生涯スポーツ係として各種事業を推進してきたわけですが、先ほども市長からありましたように今年度から生涯スポーツ課を新設し、これまで以上に市民

の健康づくり、体力づくり、仲間づくり、ひいては明るく豊かな生きがいのある地域づくりのための生涯スポーツの振興に努めたいというふうに思っています。ご質問の生涯スポーツ課の取り組みとして大きく4つ考えています。

1つ目は、市民一人1スポーツの普及拡大です。そのためにより多くの市民が参加できるような市民大会の取り組み、健康課と連携したウォーキングスポーツの推進、市全体を対象とした総合型地域スポーツクラブ創設への取り組み、スポーツ教室の充実などに力を入れていきたいというふうに思っています。

2つ目は、駅伝、マラソン大会の充実です。長井市では、ご承知のように3月の長井ロードレース大会、4月、県縦断駅伝の中継所、5月は全国白つつじマラソン大会、7月に長井トライアスロン大会、10月、長井マラソン大会、11月、西置賜地区縦断駅伝競走大会、そして今年度からは山形県の高校駅伝大会の会場にもなりますし、平成19年度から隔年ごとに東北高校駅伝の会場にもなっています。大きな大会は子供たちに夢や希望、あこがれを与えますし、地域にも活気をもたらすと思っております。長井市をPRする絶好の機会でもありますので、関係団体と連携、協力しながら大会を盛り上げていくのも大事な役目なのかなというふうに思っています。

3つ目は、競技スポーツの振興と競技力の向上の推進です。それには関係団体との連携、協力がより一層求められますし、お金もかかりますが、指導者の研修の充実、一貫指導体制の充実、選手強化などに取り組んでいきたいというふうに思っています。

4つ目ですが、社会体育施設の管理と整備です。社会体育施設は全体的に老朽化が進んでいますので、関係団体と意見交換しながら廃止、改修等の計画、また、市街地施設である市民グラウンド、野球場、テニスコートの整備、屋内

+

運動場をどうするかなど、早急に整備計画を策定する必要があります。

今年度は、生涯スポーツ課では今申し上げた4つの点を重点的に取り組んでいきたいというふうに考えています。以上です。

○町田義昭議長 平 英一財政課長。

○平 英一財政課長 おはようございます。

私に質問いただいたのは4点かと思います。

まず1点目の中期展望の根拠はとのご質問でございますけれども、中期展望の数値の推計の方法につきましては、基本的に各事業課から出された試算に基づいて推計しております。中でも普通建設事業費につきましては、公債費負担適正化計画に基づきまして、平成25年度決算において実質公債費比率が18%以下となるように緊急性などを考慮して調整を行っております。基本的には各課からの提出事業を計上しておりますことから、それを積み上げておりますので、歳入歳出額について乖離が出ております。つまり、歳出が大きくはなっておりますけれども、この乖離は実際の予算編成時において査定によって埋めていくことにより、収支のバランスをとっております。

次に、長井市の財政指標は全国的なレベルではどの位置にあるのかというふうなご質問でございますが、全国的なレベルでの財政指標を判断できるものの一つとしまして、類似団体別財政指標というものがございます。この類似団体の累計につきましては、客観的かつ容易に判断できる人口と産業構造によって設定されておりますが、一番新しい平成19年度の決算によりますと、長井市は都市類型がI-O型に属しております。全国で88団体が該当しております。この類似団体の財政指標と長井市を比較いたしますと、例えば、実質収支比率では類似団体が4.5に対しまして長井市が3.1、経常収支比率では類似団体が92.5に対しまして長井市が97.3、それから実質公債費比率が16.9に対して長井市

は23.6、財政力指数は0.49に対しまして長井市は0.47ということであります。これらのことから類似団体と比較して長井市は必ずしも弾力性のある団体とはまだ言えないということが言えると思います。

次に、5億3,000万円にも上る繰越明許費のような事業がこの先にもあるのか、その見通しはどうかというふうなご質問でございますが、平成21年度予算として22年3月の補正予算で明許繰り越しした29事業のほとんどにつきましては、22年3月に確定した国の地域活性化臨時交付金事業ということであったもので、年度内完了は不可能であったものであります。22年度に、そういうわけで繰り越したものでございますが、今後、再びこのような交付金事業が新設されるということは予想しておりません。中期展望等にも反映しておりません。ただ、国においては景気浮揚策として、予備費として1兆円を確保しているというふうな情報はありますが、これを当て込んだの事業想定はいたしていません。

最後に、市民1人当たりの地方債現在高ということでございますが、平成20年度決算で見ますと、長井市は40万3,128円、1人当たりになります。県内の13市の中では低い方から4番目、置賜3市5町でいいますと、低い方から3番目になります。ちなみに市で最も高いのは尾花沢市の69万1,195円、一番低いのが天童市の30万9,930円、それから置賜では飯豊町が85万1,019円と一番高く、置賜で一番低いのが高島町の39万4,479円というふうなことでございます。以上です。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

ことしからですが、獅子連の代表の方で小委員会を組織していただきまして、進行管理などの協議をしていただくような体制をつくってございます。そうしたふうなこともございまして、



今年度はスムーズな進行だったのでないかというふうな感じを持ってございます。

ただ、問題点といたしましては、やはり駐車場の確保、配置の問題が重要な課題であろうというふうに考えております。市内、市外からおいでになる方にとってのアクセスあるいは利便性の確保というふうなものをどういうふうにしていくかというのは、これまでもそうですが、今年度も課題として残っているというふうな状況でございます。

それから福祉施設への対応でございますけれども、福祉施設の方は昼の部に多くおいでいただいたというふうな状況でございますが、特に夜の部におきましては駐車場あるいは見学場所などについて十分におこたえするというふうなことは、かなり難しい状況だなというふうに感じております。また、今年度、沿道の一角と一緒に見学されている団体もおられたわけですが、個別のお店などと協議をしながら場所を確保するというふうな方式もあるのかなというふうなことを、ことし見させていただきました。次年度へ向けての研究課題というふうにさせていただきたいというふうに思います。黒獅子まつり実行委員会での総括あるいは反省はこれから会合が持たれるというふうな予定でございますので、議員の意見、それからご信心の問題、そういったふうな問題につきましても検討させていただくようにしたいというふうに考えてございません。

それから1市2町の状況等でございますが、獅子舞を行っている神社数、長井市が41社、飯豊町16社、川西町11社でございました。参加神社への謝礼につきましては、1社当たり10万9,000円でございます。ただ、慰労会等を含めますと、実際のそれぞれの地域の経費につきましては、それ以上に要しているだろうというふうに伺っておりますが、金額につきましては把握をしてございませんので、ご容赦いただきました

と思います。以上です。

○町田義昭議長 佐藤孝博生涯スポーツ課長。

○佐藤孝博生涯スポーツ課長 おはようございます。

蒲生光男議員の質問にお答えをいたします。

マラソン大会の開催の意義、ほかの大会を参考にしてでございますが、マラソンやジョギング、ウォーキングはいつでもどこでも多くの用具等を必要とせず、手軽にできるポピュラーな運動で、議員おっしゃるとおり有酸素運動であり、脂肪燃焼効果も望めますので、ダイエットにも効果大ということから健康づくりには最適なスポーツだというふうに思います。最近是全国的にもその人口の増加が見られておりますし、長井市内でも随分ジョギングやウォーキングをする人を見かけるようになりました。

また、過日開催されました全国白つつじマラソン大会、10月17日に開催を予定しております長井マラソン大会の参加状況を前回、前々回の参加者数と比較してみますと、全国白つつじマラソン大会では前々回より230人ほど、前回より80人ほど増加し、長井マラソン大会におきましては前回より240人ほど増加をしているところでございます。

マラソンやジョギング、ウォーキングを日常生活に取り入れて健康づくりをしようという人が着実にふえているものと思います。このような状況からもマラソン大会やウォーキング大会の運営につきましては、前大会の反省を次の大会にしっかり生かせる取り組みをしながら、また、他市町が開催する大会も勉強しながら安全な大会運営を第一に考慮いたしまして、参加者が走ってよかったと思われるような大会の充実を図ってまいりたいと考えております。

また、ウォーキングにつきましては今年度、市内6地区にウォーキングコースを設定し、ウォーキングマップを作成の上、市内全戸に配布をいたします。それにあわせてウォーキング教

+

室を6回コースで現在、計画をしているところでございます。

春夏秋冬に1回ずつマラソン大会、ジョギング大会、ウォーキング大会をあわせ持って開催をしてはどうかというご提案でございますが、新しいボリュームのある事業になりますので、関係者の皆さんから幅広くご意見を伺ってまいりたいと思っておりますのでございます。以上です。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 それぞれ答弁をいただきまして、ありがとうございます。

歳入の関係で、これは9月の決算議会で聞けばいいわけですが、収納率の見込みなどについては、この中期展望の指標と変わっている点があるかないか、そこら辺は今現在おわかりでしょうか。もし市長わからなければ、税務課長にお願いいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 21年度の収納率につきましては、92%を目標にして、これ達成できるというようなことでやってまいりましたが、一方で国保税の関係もございまして、国保税ではある一定程度の税率まで上げないと、逆に推進費が入ってこないという課題がございまして、結局、滞納されてる方はどうしても住民税以外のさまざまな税金も滞納しがちだということで、それらについては正確な数字が私わかりませんので、税務課長の方に、データ持ってきてないかもしれませんが、わかる範囲で答弁いたさせます。

○町田義昭議長 松木英司税務課長。

○松木英司税務課長 お答えいたします。

ただいま市長申し上げたとおり、精緻な数値持ってきておりませんし、今出納閉鎖終わったばかりで必死に計算をやっておる状況なんです。概算としてこれも市長が申し上げたとおり、一般市税については92%ぎりぎりぐらい、滞納を全部入れてそのぐらいでして、国保税に

については93%を目標に必死にやっけてまいりましたが、そこまで届かないというふうな状況でありまして、あと来週の頭ぐらいになりますと、すべての数値についてお出しできるのでないか、こんなふうに思っております。以上でございます。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 そうですね。収納の関係については通告しておりませんので、データが出次第、知らせていただければ、ありがたいと思います。

今回の繰越明許は公共施設の改修工事が主なわけなんです。中でも私、心配しておりますのは市民文化会館、この改修なんですけども、これ資料いただきましたのを見ますと、リニューアル計画って、それぞれ事前調査、建築工事、電気設備工事、空調設備、衛生設備、それぞれ合わせますと30何億円かかるっていう試算が出ているわけですよ。これ、市民文化会館も指定管理者制度に移行させたいという市の意向のようでございますから、この市民文化会館の改修っていうのも私は急がなければならない課題だと思うんですよ。いわゆる収納できるスペースとしては、県内でも大変大きい会館だと思いますから、仮にあそこに満席の状態でもでもない地震が起きたなんていったら、とんでもない惨事に至るわけですよ。こういったことを考えますと、ぜひこれは計画的に進めていただかなければならない事項ではございませぬけれども、そういった問題について財政的にどういうふうに措置していくのかということが非常に私は気になる点でございますけれども、その点についていかがですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、長井小学校の第3校舎の件につきましては、これは国の経済対策ではなくて、あくまでも中国の四川の大地震以降、特別措置で22年度までI s 値の低いところに支援

しますということで計画に沿ってやったものを、22年度でやる予定だったんですが、国の方で先にやる所ないかということで、うちが手を挙げたんですね。それがたまたま採用していただきまして、それでその後、いわゆる特別の交付税措置がございました。それが1億何がしで、それでできなかった調理場ができたということでもありますので、これは私は国というよりも担当者がきちんと準備してたからできたことだと思うんです。ちょっと話それて恐縮なんですけど、平成18年の冬の凍上災ってあったんですね。いわゆる長井市内の道路がぼろぼろなんですけど、そのとき97%の支援を受けて今やってれば、長井市内で道路維持に今、予算を割けなくて困っておるんですけど、それができたはずなんですよ。その同じ轍を踏まないようにということでやってきたのが、功を奏したということでございます。

あと、議員からご指摘のあった文化会館ですが、おっしゃるとおり非常に重要な課題でございまして、私が聞いておりますのは最低限では17億円ぐらいというふうに聞いております。問題は上山市のように、じゃ、長井市が文化会館を閉めてしまっているのかということでございますが、上山市は昭和45年の建物、私どもは49年の建物ということでございますので、もういよいよ判断しなきゃいけない時期に差しかかっていると、そんなことから今年度に教育委員会の中で検討委員会を設けて、将来構想を例えば10年スパンぐらいで、どのように整備するかという方針を出していただきたいなと思っておりますし、あと行革委員会の方で委員の皆様が昨年長井市内の公共施設のあり方について、現地踏査も含めて見ていただいて、いろいろご指導をいただきたいというふうに思っています。

私個人の考えとして申し上げますと、長井市としては文化会館をなくしてはいけなと、なおかつ1,000名規模の集客できる文化会館って

うのは、置賜でも米沢と長井だけでありまして、長井は白鷹、飯豊、小国あたりと連携をとりながら1,000人規模は何とか確保したいと、その工事の工事費をどういうふうに出すかについては、さまざまな研究を重ねてより有利な制度を見つけてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 マラソン大会の件で後藤町長が完走されたということだったんですけども、ぜひ市長も副市長も教育長も長井マラソン大会に出ていただきたいと思うんですよ。我妻昇議員も出て大分脂肪が燃焼したと思われませんが、ぜひ先頭に立って走られてはいいかなというふうに思います。

生涯スポーツ課長にお聞かせいただきたいんですが、白つつじマラソンの今回の予算、調べればわかるんですが、白川ダム湖畔マラソン大会の予算はそれぞれ幾らだったか、教えていただけますか。

○町田義昭議長 佐藤孝博生涯スポーツ課長。

○佐藤孝博生涯スポーツ課長 大変申しわけございませんが、資料がございませんので、両予算についてはちょっと押さえておりません。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 私は細かい数字はわかりませんが、白川ダム湖畔マラソンは120何万円ぐらいかかったと、かけているというお話でした。白つつじはそんなにかけてないと思うんですけども、小中学生全部無料参加で、全部こう、動員かけてるわけじゃないんでしょうけども、来てますので、そういう経費もかかるかもしれません。やっぱり市民、町民の健康を先取りするという位置づけをしていく場合、そういう予算の措置の仕方もあるからといって、私は必要なんじゃないかなというふうに思うんですよ。

それから四季折々に開催してみたらどうかつ

ていうことで、大会を開催するって、年1回の開催をすれば、「ああ、これでもうまず白つつじマラソンは、はい、終わりよ」ということなんでしょうけども、私はそうではないんじゃないかと思うんですよね。やっぱりもっと日常的に、毎日、空気を吸ってご飯を食べて寝るように、スポーツというものが日常のものになっていかなければ、健康先取りなんていうふうにはつながっていかないじゃないかっていう感じしてますので、そういう意味で、スポーツ都市ながいというのは新たな視点で物事を見ていくべきではないかなというふうに思っておりますので、ぜひこのことについては市長の考えをもう一度お聞かせいただけますか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私もマラソンは大好きです。何とか週に1回ぐらいは歩きたいなと思っているんですが、夜中の11時とか12時に歩けば別なんですけど、ちょっと歩けないという状況で、ただ、目標としてはぜひマラソン大会に出られるように頑張りたいというふうに思っています。

より多くの市民の皆様に参加いただくようなマラソンイベントの開催でございますが、正直なところ、昨年までの体制ですと、できないなというふうに私は思っておりました。ですから、ことし、まず組織をつくって総体的に1年間のスケジュール、あとは今年度から高校の男女の駅伝を長井で開催することを受け入れを決定したものですから、それと2年に1度の高校駅伝の大会を受け入れるということで100万円近くかかりましたが、新たなまちなかを通るマラソンのハーフのコースですけど、これも認定いただく予定でございます。ちょっとことしは白つつじマラソン、恐らく数十万円程度だったと思うんですが、これを例えば記念大会で前に高橋尚子選手を蒲生議員の方から声かけていただいて、失礼しました、ケミコンの千恵美選手ですね、そういったことなんかも含めてやっぱ

りもっと市民の関心を高めながら、より多くの参加を募れるような、そういうマラソンイベントをぜひ来年度以降開催したいもんだなというふうに思っております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 黒獅子に関しまして私も観光協会の何かカメラマンだっけ、何とかカメラマンというのが委嘱されました。セレクトカメラマンです。私と市民課長と、それから農林課長と児玉会計主幹ですかね。毎年、写真撮りをしてるんですけども、ことしは本当に人の取り巻きっていいですかね、あれは二重三重になって結局そこに加われない人たちが売店の方に行って、私は直接わかりませんが、ある方に聞きますと全部売り上げ増につながったということでした。だんご屋だけが昨年比で減少したというお話だったんですけども、こういう経済波及効果もあるわけですよね。これと白つつじマラソンと合体できないかという意見などもあります。そして、いかにしてこの宿泊数を伸ばしていくか、それにつなげていくかという指摘する方もおられます。私が質問で触れましたけれども、ご信心の仕方、あるいはまたお神酒のやり方、これはそういう意見もあるということ踏まえていただいて、これからその実行委員会の反省をする場を持つということでございますので、十分その場で次年度以降の開催についてより楽しめる、より市外の方々に来ていただける一大イベントになるようにご期待申し上げます。

ぜひこのことをよろしくお願い申し上げます。質問を終えたいと思います。ありがとうございました。

### 小関勝助議員の質問